

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 田原 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日(木)に、「教科(国語、数学に関する調査)」、文部科学省が指定した日(4月14日から4月17日の間)に「教科(理科に関する調査)」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

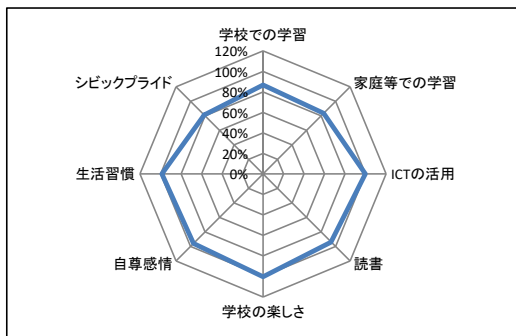
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率は、下回っているものの、ほぼ同程度である。選択式の問の無解答率は0だった。「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「話すこと・聞くこと」の領域の正答率が全国値を上回った。「文章を校正する問い」の無解答率が高く、問いの意味が分かっていない生徒が多い可能性がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉える問題	
	努力が必要な問題	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える問題	

数学	全体的な傾向や特徴など	「知識・技能」、「思考・判断・表現」とともに正答率は全国値を上回った。しかし、「関数」に関する問題の正答率は全国値を下回った。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	データに関する問題	
	努力が必要な問題	数学的な用語の意味を理解し、適切なものを選ぶ問題。	

理科	全体的な傾向や特徴など	実験技能などの知識・技能については、全国平均を上回ることが多かったが、科学的な思考力・判断力を問う問題は、正答率が低くなる傾向があった。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	粒子を柱とする領域の問題	
	努力が必要な問題	地球を柱とする領域の問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」「友達関係に満足していますか」との問いに対して約85%の生徒が肯定的に回答している。 ・「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と回答した割合が低かった。今後は、総合的な学習の時間だけでなく、各教科における発表場面でも、どのように表現すればより伝わるかを考えさせたり、指導したりする。 ・「人の役に立つ人間になりたい」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答した割合が高かった。今後も、生徒が活躍できるよう行事や生徒会活動を充実させ、がんばったことを評価し、周りにも伝えていく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・各教科の授業の中で、生徒に「なぜ？」を意識し、問題の背景や根拠を考えさせ、問題の本質をとらえる力を育む。そして既習内容との関連性を確認することで、知識の理解を確かなものにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭内においても子どもに何か役割を与え、できたことを保護者が評価することで、自分が役立っていることを実感させる。